

堺市子ども読書活動推進計画 改定骨子案

計画の概要 (第1章)

子どもの読書活動の推進に関する法律 (H13)

第1条 この法律は、(中略) 子どもの健やかな成長に資することを目的とする
第2条 子ども(おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ)の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国) 子ども読書活動推進基本計画

堺市基本計画2025
3.将来に希望が持てる子育て・教育～Children's future～

堺市SDGs未来都市計画
4 質の高い教育をみんなに

第3期未来をつくる堺教育プラン

「堺市子ども読書活動推進計画 (改定)」

現状と課題 (第2章)

国の動向

第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画 (R5.3)

急激に変化する時代において、必要とされる資質・能力を育む上で、読解力や想像力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠である。

基本的方針

1. 不読率の低減
2. 多様な子どもたちの読書機会の確保
3. デジタル社会に対応した読書環境の整備
4. 子どもの視点に立った読書活動の推進

その他

- 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律 (R1.6)
- GIGAスクール構想 (R1.12)
- 第6次学校図書館図書整備等5か年計画 (R4.1)
- こども基本法 (R4.6)

子どもの読書活動を取り巻く現状

- 令和元年度の大阪府調査では、本を読まないと回答した子どもの読書をしない理由として、「文字を読むのが苦手」と回答した割合が小学5年で28.8%、中学2年で16.1%、高校2年で16.6%である。
- 文部科学省の調査において、通常の学級に在籍する児童・生徒の内、「読む」又は「書く」に著しい困難を示す、特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の割合は、平成24年に2.4%であったのが、令和4年には3.5%と増加している。
- 堺市の外国人人口は増加傾向にある。国勢調査では、堺市人口の0～14歳の人数は、平成27年と令和2年を比べると、約▲9.6ポイント減少しているが外国籍の人数は約22ポイント増加している。
- 文部科学省の調査では、堺市の児童・生徒のスマートフォンの令和4年度の利用率は平成29年度と比べて小学5年で14.9ポイント、中学3年で6.4ポイント増加している。
- 全国的な調査において、電子書籍を「読んだことがある」「読んだことはないが読んでみたい」と回答した児童・生徒の割合はどの学年も約7～8割と、電子書籍に対する興味は高い。

改定案におけるポイント

現在の取組を継続
+
社会変化を踏まえた取組の推進
多様な子どもたちの読書機会の確保 など

施策の方向性

- 子どもの読書活動の普及・啓発
- 多様な子どもたちに対応した読書環境の整備・充実
- 子どもの読書活動を推進する体制の強化

計画の内容（第3章）

基本理念

すべての子どもの豊かな心と、人生をより深く主体的に生きる力を育成し、未来を創り上げる人材を地域全体で育む

基本方針

家庭、地域、市立図書館、学校などが連携・協働し、社会の変化に対応した読書環境を整え、多様な子どもの自主的な読書活動を啓発・支援する体系的な取組を子どもの視点を取り入れながら行う。

計画期間

令和7年度から5年間

成果指標

国の方針を基に、他市の計画も参考に検討中

発達段階別取組

| 子どもへの働きかけ | 保護者への働きかけ | 読書環境の整備 | 推進体制の強化 |
|--|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> きっかけ作り、読書継続支援 読書能力の発達支援 情報の発信 図書館・司書業務の体験 | <ul style="list-style-type: none"> 資料・情報の提供 場の提供 | <ul style="list-style-type: none"> 地域での取組 市立図書館での取組 学校園での取組 | <ul style="list-style-type: none"> 担い手の育成 ボランティア活動の促進 連携・協働の推進 <u>子どもの視点の導入</u> |



新たな取組（社会変化を踏まえた取組の推進）

電子書籍やLLブック（※）、外国語資料などの多様な資料の充実、様々な媒体を活用した情報発信 など

※LLブック：文字を読むことや本の内容を理解することが苦手な人でも読みやすくなるように、やさしくてわかりやすい文章と表現を用いて作られた本